

と、軽い気持ちで返事をした。料理は何度か
作ったことがある。たし、簡単にできると思っ
ていたからだ。

メニューは、おにぎらずにした。ご飯とお
かすが一緒に作っていた。おいしいし、前
も母と一緒に作ったことがある。ま
まは、卵焼きを焼くことにした。四角い形に
するために、卵焼き器の半分まで、卵を折り
曲げる。母が折るときは、ほしをひいてこ
動かすだけで、折り曲げられるのに、私がし

たら、ぐちゃっとなってしまっただ。次に半分
に切った。たらいに水を焼いた。具ができたら、
ラップをしいて、焼きのり、塩、ご飯の順に
のせていった。ご飯の上に具をのせて、けし
ゃップをかけて、またご飯をのせた。具の上
にご飯をのせるのは、すべって難しかった。
そして、最後のりで包むのも、べりっとな破
れてしまった。シヨックだった。お弁当作りは、
大変なんだなあということが、自分でやって
みて分かった。そして、お弁当を作るのは、

母の仁事だから、朝早く起きて作ってくれ
るのは当たり前だ、と思っていたことが、間
がいたということに気が付いた。

今年の夏休みも、毎日お弁当を作ってもら
って学童に行きた。学童では、お昼になると
みんなでテーブルを出して、持ってきたお弁
当を見せ合いながら食べる。

「それ、おいしそう。」
「いいなあ。どこで買ったの。」
「わたしも今度それ作ってもらおう。」

とか言いながら、パクパク食べる。みんなニ
コニコしている。母が作ってくれたお弁当も
食べながら、みんなで楽しい時間を過ごすと
みんなともっともっと仲良くなれる気がする。
これからもお弁当を作ってもらおうとキがあ
ると思う。そんな日は、家に帰ってきたら
ぐに
「お弁当おいしか、たよ、ありがと。」
と笑顔で、感謝の気持ち伝えたい。